

公益財団法人 大山健康財団
令和 8 年度事業計画書
(令和 8 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 31 日)

本財団は、定款に基づき下記の公益目的事業等を計画的、着実に実行、推進して行く。

1. 学術研究助成事業

感染症の基礎的あるいは臨床的研究及び感染症に関する疫学的研究を行っている若手（満 50 歳以下）の個人を対象に、一般細菌感染症、真菌感染症、ハンセン病、リケッチア症、寄生虫病などの研究課題に対して、公募により申請された研究計画を審査、選考の上、令和 8 年度は第 53 回目の学術研究助成金受贈者を決定し、令和 9 年 3 月に贈呈式を執り行う。

なお、令和 8 年度も引き続き助成金総額を 1,000 万円（1 件：100 万円、10 件）として予算計上する。

2. 顕彰事業

顕彰事業である次の各賞について、公募推薦された個人を審査、選考の上、受賞者を決定し、令和 9 年 3 月に贈呈式を執り行う。

(1) 令和 8 年度「第 53 回大山健康財団賞」

発展途上国において、長年医療協力に尽くし、特に感染症対策に尽力した医療関係者個人に対し、賞状、記念メダル及び副賞（100 万円）を贈呈する。

(2) 令和 8 年度「大山激励賞」

大山健康財団賞に準ずる功績のあった医療関係者を対象とし、今後一層の活躍が期待される個人に対し、賞状と副賞（50 万円）を贈呈する。

(3) 令和 8 年度「第 9 回竹内勤記念国際賞」

発展途上国において長年、熱帯医学、寄生虫学の研究に貢献し、今後とも大いに活躍が期待される若手（満 50 歳以下）の研究者個人に対し、賞状と副賞（30 万円）を贈呈する。

3. 学術集会支援事業

予防医学、感染症（細菌、真菌、寄生虫）、特に発展途上国における感染症、顧みられない熱帯病等に関する学術集会に対し、公募により申請された学術集会を審査、選考の上、学術集会支援助成金を贈呈する。

なお、令和 8 年度も引き続き助成金総額を 100 万円（1 件上限 50 万円、5 件まで）として予算計上する。（令和 6 年度よりこれまで 3 件までとしていた助成件数を 5 件までとしている。）

4. 年報作成

令和 7 年度の第 52 回大山健康財団賞受賞者、大山激励賞受賞者、第 8 回竹内勤記念国際賞受賞者及び第 52 回学術研究助成金受贈者の紹介、並びに令和 7 年度学術集会支援助成金受贈対象学術集会実施報告、第 51 回学術研究助成金受贈者研究業績報告を収載した年報 No.51 を作成する。作成費用 30 万円を予算計上する。

5. 寄付金

国際医学研究会（慶應義塾大学医学部学生組織）の第 49 次派遣団の下記の活動に寄附をすることとし、30 万円を予算計上する。国際医学研究会より以下の計画が提出されている。

【活動目標】

本年度の第 49 次派遣団は、本研究会の設立趣旨である「医の原点の実体験」「医学、医療を通じた国際交流」を基本指針とし、南米の活動地域コミュニティの人々に対して医学生が貢献できることは何か、そして未来に我々の経験をどう還元できるかについて現地での活動を通して考察する。

【活動日程】(予定)

2026年7月4日(土)～2026年8月30日(木) 全58日間

【活動計画】(予定) 現段階では以下の通りである。

◎ブラジル

・ボアビスタ：

ボアビスタ近郊にて先住民族ヤノマミのコミュニティを訪問し、彼らが長年培ってきた伝統医療や生活様式を現地で観察・体験する。自然環境と密接に結びついた医療観・健康観に触れることで、西洋医学とは異なる疾病理解や治療概念を学ぶとともに、文化的・社会的背景が医療に与える影響について考察する。さらに、急速に進む近代化の中で先住民族が直面する健康課題や医療アクセスの問題を把握し、現代医療がどのように彼らの文化や価値観と共存しうるのかを探究する。

・パリンチンス：

パリンチンス市から1週間にわたって船に同乗し、アマゾン川を巡回し無医村である3つの村を訪れる。地域特有の疾患を的確に把握した上で、迅速に診断を下していく役割を果たす医師の監督の下、その診療補助や感染症の迅速検査にも積極的に携わる。採血検査や画像検査も容易にはできない限られた医療資源の中でどのように質の保った医療を提供できるのかを考察する。

・サンパウロ：

ブラジル最難関の大学であるサンパウロ大学、パウリスタ大学にて日伯医学生会議を開催する。日本・ブラジル双方の医学生がポルトガル語で共通の医学的テーマについて発表し、日伯での違いを討論する。今年の発表テーマは「日本の終末期医療について」「日本の予防医療の現状」「日本のAI医療」の3つを検討している。この発表のため活動開始の1年前より外部講師を招いて現地の言語であるポルトガル語を一生懸命に習得している。

・ポルトアレグレ：

地理的にも言語的にも医療へのアクセスへの障壁があり「医療難民」となっている日系移住民に対して、大型車に乗り込み自ら医療を届けに行く巡回診療を行う森口エミリオ秀幸医師の診療に同行する。医師として人々に平等かつ公平に医療を届けることの意味、また人々にとって医療を受けるといった権利の意味について考察する。

◎ペルー

・クスコ：

IVHQ (International Volunteer HQ) が運営する医療・ヘルスケアボランティアに参加し、低所得層向けの病院・クリニック・高齢者施設にて医療支援活動を行う。慢性的な人手・資金不足に直面する現地医療現場において、医師・看護師の監督下で診療補助、トリアージ補助、患者ケア、健康教育ワークショップなどに携わり、学年・経験に応じた実践的役割を担う。限られた医療資源の中で地域住民の健康を支える現場を体験することで、ペルーの医療制度や社会的背景を理解するとともに、医療アクセス格差の是正に向けた国際医療協力の在り方について考察する。

◎エクアドル

・クエンカ：

エクアドル第3の都市クエンカを拠点とするNPO団体に同行し、外科的治療へのアクセスが乏しい山間部住民を対象とした外科手術移動車への同乗実習を行う。加えて、都市部および山間部での訪問診療、保健センター・病院での実習、現地小学生への公衆衛生教育に取り組む。都市と山間部にみられる貧困度や医療格差、地域特性を踏まえた医療の現場に身を置くことで、医療と社会の関係について考察する。他、現在計画中。

以上

令和8年度 正味財産増減予算書

令和8年4月1日～令和9年3月31日

公益財団法人 大山健康財団

単位:円

科目	公益目的 事業会計	法人会計	2026年度予算(A) (令和8年度)	2025年度予算(B) (令和7年度)	増減 (A-B)	内部取引控除	公益目的事業会計(内訳表)			
							学術研究助成事業	顕彰事業	学術集会支援事業	共通
I 一般正味財産増減の部										
1. 経常増減の部										
(1) 経常収益										
① 基本財産運用益										
基本財産受取利息	5,323,302	823,698	6,147,000	6,147,000	0		0	0	0	5,323,302
社債償還益	6,893,776	1,066,704	7,960,480	0	7,960,480					6,893,776
② 特定資産運用益										
特定費用準備資金受取利息	866	134	1,000	1,000	0		0	0	0	866
③ 運用財産運用益										
運用財産受取利息	0	0	0	0	0		0	0	0	0
④ 受取寄附金										
受取寄附金	476,300	73,700	550,000	550,000	0		0	0	0	476,300
⑤ 雑収益										
⑥ 指定正味財産からの振替額	300,000	0	300,000	300,000	0		0	300,000	0	0
経常収益計	12,994,244	1,964,236	14,958,480	6,998,000	7,960,480		0	300,000	0	12,694,244
① 事業費										
学術研究助成費	10,000,000	0	10,000,000	10,000,000	0		10,000,000	0	0	0
褒賞費	1,800,000	0	1,800,000	1,800,000	0		0	1,800,000	0	0
学術集会支援費	1,000,000	0	1,000,000	1,000,000	0		0	0	1,000,000	0
贈呈式典費	1,200,000	0	1,200,000	1,200,000	0		600,000	600,000	0	0
諸謝費	1,300,000	0	1,300,000	1,200,000	100,000		900,000	300,000	100,000	0
人件費	6,450,000	1,050,000	7,500,000	7,000,000	500,000		3,750,000	2,625,000	75,000	0
印刷製本費	300,000	0	300,000	300,000	0		200,000	100,000	0	0
会議費	280,000	820,000	1,100,000	1,400,000	△ 300,000		156,000	124,000	0	0
旅費交通費	525,000	575,000	1,100,000	1,235,000	△ 135,000		300,000	200,000	25,000	0
通信費	258,000	42,000	300,000	450,000	△ 150,000		150,000	105,000	3,000	0
賃借料	1,809,440	294,560	2,104,000	2,034,060	69,940		1,052,000	736,400	21,040	0
水道光熱費	129,000	21,000	150,000	130,000	20,000		75,000	52,500	1,500	0
交際費	0	300,000	300,000	500,000	△ 200,000		0	0	0	0
事務用消耗品費	137,600	22,400	160,000	150,000	10,000		80,000	56,000	1,600	0
寄附金	0	400,000	400,000	300,000	100,000		0	0	0	0
雑費	86,000	414,000	500,000	1,470,000	△ 970,000		50,000	35,000	1,000	0
経常費用計	25,275,040	3,938,960	29,214,000	30,169,060	△ 955,060		17,313,000	6,733,900	1,228,140	0
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 12,280,796	△ 1,974,724	△ 14,255,520	△ 23,171,060	8,915,540		△ 17,313,000	△ 6,433,900	△ 1,228,140	12,694,244
基本財産評価損等	0	0	0	0						
評価損益等	0	0	0	0						
当期経常増減額	△ 12,280,796	△ 1,974,724	△ 14,255,520	△ 23,171,060	8,915,540		△ 17,313,000	△ 6,433,900	△ 1,228,140	12,694,244
1. 経常外増減の部										
(1) 経常外収益										
(2) 経常外費用										
当期経常外増減額										
他会計振替額										
当期一般正味財産増減額	△ 12,280,796	△ 1,974,724	△ 14,255,520	△ 23,171,060	8,915,540					
一般正味財産期首残高			821,274,721	844,445,781	△ 23,171,060					
一般正味財産期末残高			807,019,201	821,274,721	△ 14,255,520					
II 指定正味財産増減の部										
一般正味財産への振替額			△ 300,000	△ 300,000	0					
当期指定正味財産増減額			△ 300,000	△ 300,000	0					
指定正味財産期首残高			10,600,000	10,900,000	△ 300,000					
指定正味財産期末残高			10,300,000	10,600,000	△ 300,000					
III 正味財産期末残高			817,319,201	831,874,721	△ 14,555,520					

(注) 資金として特定費用準備資金事業推進基金(特定資産:定期預金)を取崩す。指定正味財産の振替額は竹内勤記念国際賞副賞金(受取寄附金)への振替